

てんさい新品種候補			
「H129」の概要			
道立十勝農試、北見農試、中央農試、上川農試、北農研センター 北海道てん菜協会(日本甜菜製糖㈱、北海道糖業㈱、ホクレン)			
1. 特性一覧表			
系統名	H129	来歴	「H129」は、オランダのアドバンタ社が育成した三倍体単胚の一代雑種である。平成12年にホクレン農業協同組合連合会が輸入し、平成13年より各種試験を行った。
特長	1) 根重が多く、糖量が多い。		短所
性所			1) 褐斑病抵抗性が“弱”である。 2) 耐湿性が“やや弱”である。
普及見込面積	平成16年度 2,000ha		平成17年度以降 17,000ha
系統・品種名	H129	モノホマレ (標準品種)	アーベント (対照品種)
形質			
倍数	三倍体	二倍体	三倍体
葉姿	やや開平	直立	やや開平
葉長	やや短	長	やや短
葉数	やや多	やや多	中
葉形	楕円	皮針	楕円
クラウンの大小	小	小	小
根形	円錐	円錐	円錐
分岐根	少	少	少
露肩	やや少	中	やや少
根重 (t/10a)	7.53(108)	6.96(100)	7.14(103)
根中糖分 (%)	17.57(102)	17.22(100)	17.64(102)
糖量 (kg/10a)	1,320(110)	1,195(100)	1,256(105)
有害性	アミノ態窒素	1.86(107)	1.75(100)
非糖分	カリウム	3.73(93)	4.02(100)
(meq/100g)	ナトリウム	0.32(77)	0.41(100)
不純物価 (%)	3.72(95)	3.91(100)	3.70(95)
特性	褐斑病抵抗性	弱	やや弱(やや強)
検定	根腐病抵抗性	やや弱	やや弱(弱)
	耐湿性	やや弱	やや弱
	抽苔耐性	強	強
	黒根病抵抗性	中	中

注1) 特性検定は担当農試の成績で、褐斑病抵抗性、根腐病抵抗性における「モノホマレ」の( )内は品種登録時の評価。

2) 形態的特性は十勝農試の成績。その他は十勝、北見、中央、上川、北農研、てん菜協会(3カ所)の計8カ所平均で、試験年次は3カ年(H13~15)、( )内は「モノホマレ」に対する百分比。

3) 黒根病抵抗性は単年度結果から、「モノホマレ」と同程度(中)と考えられる。

## 2. 「H129」の特記すべき特徴

根重は「アーベント」より多く、根中糖分は「アーベント」並で、糖量が「アーベント」より多い。不純物価は「アーベント」並である。

## 3. 優良品種に採用しようとする理由

てん菜の根重および根中糖分の優れた品種の導入、普及は生産性の向上にめざましい成果をあげてきており、平成11年優良品種に認定された「アーベント」は、根重、根中糖分ともに優れた多収品種として、平成15年には約2万2千haと広く栽培されている。

しかし、最近の砂糖の価格情勢は厳しく、生産者の収益が低下していることから、根重、根中糖分が「アーベント」をさらに上回る品種の普及が切望されている。

「H129」は、「アーベント」と比較して根中糖分は同程度であるが、根重が多いため、糖量が多い。なお、不純物価は「アーベント」並で品質は同程度、褐斑病抵抗性は“弱”であるが「アーベント」より発病はやや少なく、その他のてん菜主要病害に対しても特に問題となる点はない。

このことから、「H129」を「アーベント」に替えて北海道一円に普及することにより、てんさいの多収化と安定生産に寄与できる。

## 4. 適地

北海道一円。

## 5. 栽培上の注意

- 1) 褐斑病抵抗性が“弱”なので、適切な防除に努める。
- 2) そう根病抵抗性を持たないので発病圃場での栽培を避ける。